

## メッセナゴヤ2006「環業見本市」に出展し環境関連技術をPR

10月19日(木)~21日(土)の3日間、名古屋市港区のポートメッセなごやで「メッセナゴヤ2006 環業見本市」が開催されました。3日間の来場者数合計は、37,180人と大盛況で、みなさまの環境に対する意識の向上がうかがえるイベントとなりました。

当社ブースは、自然ゾーン、次世代ゾーン、エネルギーソリューションゾーンの3つに分け、25の環境関連技術などを展示。パネルやサンプル、体験できるコーナーを設けて、環境ビジネス目的の方から家族連れまで多くの来場者の方々に直接PRできるよい機会となりました。

来場されたお客さまからは、「新しい技術・商品開発のホットなニュースが提供されていて良かった」、「技術革新の進歩には驚いた」、「中電はいろいろな開発をされていてとてもおもしろかった」から「アマゴがすごい」、「石炭灰の有効利用が参考となった」、「実際手にとって使用できるコーナーがたくさんあれば、より勉強になった」という感想もありました。商談面では、「アスベスト簡易判定法」や「音カメラでの騒音測定」、「グラウンドカバー植物」などへのお問い合わせも多く、今回の出展でたいへん成果があったものと考えております。



ブース全景

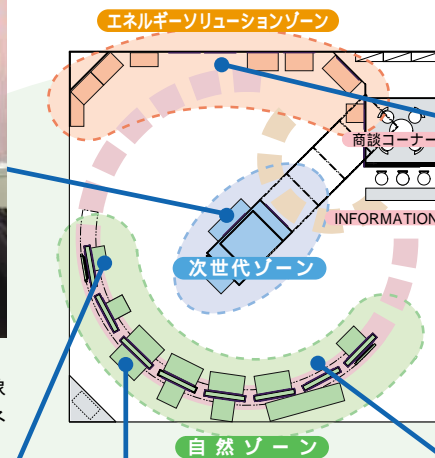


ブースを視察される川口会長(中央) フロン類破壊処理装置の説明を受ける若林環境大臣(向かって右)



室温磁気冷凍システム

磁性体に磁界の変化を与え、温度が変わる現象を利用した冷凍技術。フロンを使用せず、省エネ化、コンパクト化を実現しました。



電気二重層キャパシタ式瞬低補償装置

鉛などの重金属を使用せず、活性炭を用いたキャパシタにより、環境に優しく長寿命・省メンテナンスで、低運転コストの装置を実現しました。



音カメラ

目に見えない音を映像化する音源探査装置。工場の騒音調査、防音対策、機器の劣化診断など、今後の活用が期待されます。



グラウンドカバー植物

数種類の植物を組み合わせ、雑草抑制と景観保持を両立。低コストを実現し、広い土地や工場で高いニーズがあります。



フロン類破壊処理装置

温室効果ガスであるフロンを無害化。省エネルギー性に優れ、乾式で廃水処理が不要。フロン回収破壊業者向けに開発しました。